

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	<p>筑西市立下館北中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パラリンピックの紹介：中学1～3年生（140名） 教員（14名）</li> <li>・パラリンピック選手の講話：筑西市立河間小学校5・6年生，中学1～3年生（230名），教員，教育委員会職員（20名）</li> <li>・ブラインドサッカーボールと耳栓を活用した疑似体験活動，人権教育の一環として：中学1～3年生（140名），教員（15名）</li> </ul>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教科名（全校道徳）</li> <li>② 行事名（全校集会）</li> <li>③ その他（小中一貫教育推進事業）</li> </ul> <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 イベント名（ ）</li> <li>2 その他（ ）</li> </ul>
4 目標 (ねらい)	<p>(1) パラリンピックの目的や内容等を理解する。</p> <p>(2) パラリンピック選手が障害を乗り越えてスポーツに打ち込んだ話を聞くことで、障害をもっている方への理解を深めるとともに、自らもたくましく生きる態度を養う。</p> <p>(3) 目や耳が不自由な疑似体験活動を通して、障害のある方と気持ちよく共存できる社会について考える機会をもつ。</p>
5 取組内容	<p>(1) 事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学区内の小学校より「I'm POSSIBLE」を借用し、写真を活用してパラリンピックについて紹介したり、クイズを出題して関心を高めたりした。</li> <li>② 「Impossible」+「I」＝「I'm POSSIBLE」になることを視覚的に紹介し、努力や前向きな気持ちで「不可能が可能になる」こともあることを確認した。</li> </ul> <p>(2) パラリンピック選手の講話と実技</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 走り高跳びのパラリンピック選手である鈴木徹選手に本校に来校していただき、本校ブロックの中小学校、河間小学校の5・6年生も招いて小中一貫教育推進も兼ねながら、講話を聞いた。</li> <li>② 実技を披露していただき「I'm Possible」の意味を改めて確認した。</li> </ul>

	<p>(3) 継続指導（事後指導）</p> <p>① ブラインドサッカーボールを用いてのブラインドサッカー体験や、耳栓を活用しての全校生徒でのコミュニケーション活動など、障害のある方の立場になって体験活動を行った。</p> <p>② 道徳の時間を使って、人権や誰もが気持ちよく共存する社会について考える機会をもった。</p>
6 主な成果	<p>(1) パラリンピックに対する理解が深まり、目標に向かって全力で練習に励む選手を、心から応援しようとする意識が高まった。</p> <p>(2) パラリンピック選手の生い立ちや器具の脱着の様子、走り高跳びの実技を目の前で紹介してもらうことで、パラリンピックを身近に感じる事ができた。また、そのことは、インクルーシブな社会を生きていくこれからの生活に、大きな刺激になった。身近に存在する障害のある方や支援の必要な方への接し方も、これまで以上に積極的にできると期待できる。</p> <p>(3) 自らも目標を高くもち努力する生徒が増えたことが、生活ノートから感じられる。</p>
7 実践において工夫した点（事業の特色）	<p>(1) 「なぜ、今、パラリンピックに対する理解なのか」「何を狙いとして講師を招聘するのか」など、事前指導で十分に理解が深まるように工夫した。</p> <p>(2) せっかくのパラリンピック選手招聘なので、講話の内容を理解できる近隣の小学校5・6年生を招いた。</p> <p>(3) 自らも目や耳が不自由な疑似体験をし、そんな時、周囲に何をしたいかを考える機会をもった。</p>
8 主な課題等	<p>(1) 集会や講演会の直後は生徒の意識も高まっているが、時間の経過とともに意識が薄れているように感じる。生徒会を中心として、定期的に全校集会で、または、学級での道徳を活用して継続的に関連した内容の学習を行っていく必要性を感じる。しかし、時間の確保が難しいのも事実である。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>(1) 本校に来校してくれたパラリンピック選手の鈴木徹選手に関する図書を中心に、オリンピック・パラリンピックで活躍している選手等の図書を購入し、2020年に向けて、生徒の意識の高揚を図っていく。</p> <p>(2) ブラインドサッカーや耳栓体験を定期的に行い、疑似体験を通して、どんな人も気持ちよく共存できる社会を目指した話し合いを行い、人権教育や道徳教育の充実を図る。</p>